

100回目のコラム

今月号の「タクシージャパン」誌への掲載で、「団塊耕志録」は100回目を迎えることになる。リーマンショック直後の2008年10月号から始まり、基本的に月1回のペースで掲載させてもらった。こうした締め切りのある定期発行の業界誌に載せていただいたコラムだからこそ、書き続けられてきたのだと思う。掲載の場を与えてくれたタクシー日本新聞社の高橋社長には、改めて感謝をしたいと思う。

実は「団塊耕志録」というコラムはタクシー専門のインターネットポータルサイト「タクシーサイト」に2001年5月から掲載を始めたものである。しかし、7回ほど不定期に掲載した後、挫折（！）し、放っておいたものを、「タクシージャパン」で復活させていた。改めて意志の弱い人間には、「締め切り」と「適度のプレッシャー」が必須だと思ふ次第だ。「団塊耕志録」というコラムで書きたかった当初の目

的は、団塊の世代である自分が若い頃に「全共闘運動」や「新左翼運動」など社会的な関わりを持つてきたことに、どんな意味と限界があり、それ以後のシステムオリジンの仲間との創業や経緯など自分の生き方の中でどう総括されるのかを整理したい、それを自分の「終活」としたいという思いからであった。

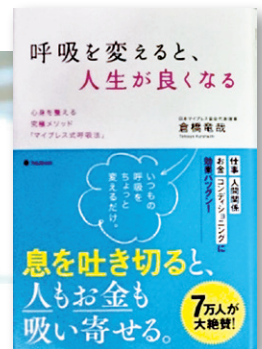
果たしてそれが前向きな活動なのか、単に過去を振り返り、懐かしむだけのことに終わるのかは分からない。しかし、少なくともその時々で、精一杯、真剣に生きたいつもりなので、「若気の過ち」としてのみ忘れ去るには無責任の様な気がする。が、コラム「団塊耕志録」は一向にそういう世界に切り込めずに、毎月起こる業界を中心とした出来事に自分なりの感慨を述べることに一杯いっぱいというのが現実である。昨年3月、66歳にしてシステムオリジン社長を退任し、共同創業者の海野社長にオリジンの未来を託して以降、自分の新たな役割を探し続けているところだが、少なくとも「耕志（こころざし

清野吉光氏のコラム 第100回

団塊耕志録

清野 吉光(きよの よしみつ) 略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、松本深志高校卒業。1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2000年(株)タクシーサイト創立。現取締役会長。2007年タクシーアシスト代表取締役社長に就任。2016年3月システムオリジン社長退任。チームネクスト事務局長。

ゆるさない事と
ゆるせない事

をたがやしつつづける」という思いと「好奇心」だけは失わずに生きて行きたいと思う。初期の「団塊耕志録」の目標が達成できるかは、自身でも分からないが、しかし、コラム「団塊耕志録」だけは、その場を与え続けられている限り、呻吟しながらも書き続けて行きたいと思う。

「ゆるし」のセミナー

4月9日の日曜日、たま日本マイブレス協会代表の倉橋竜哉さんが主宰す

る呼吸法のセミナーに参加した。過去の瞑想断食に参加した時にも呼吸法がよく解らず、興味を持っていたからだ。ところが、その日のテーマは「ゆるしと呼吸法」で、参加者（清野を入れて6名）が、自分が許せないことを挙げ、それを、呼吸法を使いながら自分自身を「ゆるめ」、そして「ゆるさない自分」に気付く、「ゆるめないこと」は無いことに気付いていく参加型のワークショップであった。

てつきり座学の講義だと

思い、こうした参加型の少人数ワークショップなどは思っていないし、参加者は倉橋講師と清野以外はすべて女性で、最初は戸惑ったが、案外やってみると楽しかった(････)。と、いうことで、特に許せないことが強くあつて参加したわけではないが、ワークショップの進行上、許せないことを無理やりに探してみた。

信頼していない……

その中でひとつ思い浮かんだことがあつた。それはずっと昔、信頼もし、評価もしていた後輩が、人づてに自分を「信頼していない」ということを聞かされたことであつた。これは、今でも自分にとって、小さなトゲのように感じ、あえて言えば、自分にとって「ゆるせないこと」ということになる。これを自分の為に「ゆるせる」ようになりたいと思つた。

そして、ワークショップでも一人ひとりが自分の許せないことを挙げていった。自分の子供が学校で「いじめられたこと」やら、小さいころ

親の不注意で右手を切断してしまい、さらにその親が離婚をし、母親をずっと支えてきたが、母親はその方の苦労、努力を評価、感謝をしていないことなど、清野の「ゆるせないこと」など笑つてしまふ程、重たい「ゆるせないこと」が淡々と控えめに語られた。

そして倉橋講師から、「ゆるしの7ルール」というレジュメが配られた。示唆と気付きに富んだ内容なので、著作権上問題があるかも知れないが、宣伝にもなるから載せさせて下さい！倉橋先生！

ゆるしの7ルール

- 1 「ゆるさない」ことはあつても「ゆるせない」ことはない。
- 2 「ゆるさない」根源は恐怖と執着にある
- 3 「ゆるさない」は気持ちいい
- 4 「ゆるし」は甘やかしではない
- 5 「ゆるし」は繰り返し行うもの
- 6 「ゆるせない自分」をまずゆるしなさい
- 7 「ゆるし」は成長の糧となる

る

以上の観点から、「ゆるしの呼吸」や「みつめる呼吸」、「合わせる呼吸」などを行い、最後に「ゆるしのワークショップ」の実践後の気持ちを詩にするよう課題が出された。

「え、詩なんて書いたことないよ！突然そんなことを言われても……」と内心思いつつも、自分なりに心を整理してたどり着いたのが以下の心境の詩

「君にとっての真実」

君の言葉は僕にとって不本意だ
君の言葉は僕にとって悲しい
君の言葉は僕の力を奪う
でもそれは君にとっての真実
何がそうさせたかは、僕にはわからない。
理不尽にも思えるが、しかし、それは君にとっての真実……

まずそれを受け入れよう。それを真実だと思ふ君を受け入れよう。

良い所がいっぱいある君の「君にとっての真実」を受け入れよう……

そしてその君が、いつの日か、僕をゆるしてくれることを信じよう！

もしかしたら、僕のひとりよがりな「僕の真実」が知らないうちに、君を傷つけていたかも知れない。

君が心を開いて、その辺の事情を話してくれるまで、僕も心を開いて静かに待とう。

多分、どちらかが正しいのではなく、「それぞれにとっての真実」だけが存在し、それが「ゆるし」のワークの中で、共感、共鳴、融合する日がいつか来ることを祈ろう！

(2017年4月23日記)



タクシー乗務員紹介事業

厚生労働大臣許可 有料職業紹介許可番号 13-ユ-307552

ヒューマンエンジンサポート株式会社

<http://td500.jp>

弊社は、元トップドライバー関隆氏による「流し方教室」受講の受付窓口です

ヒューマンエンジンサポート株式会社

〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-12-14 廣瀬ビル1F

TEL: 03-5281-3088

